

サブサハラ・アフリカ主要国
インフラマップ

2013年3月

ジェトロ・ヨハネスブルク事務所

本報告書に関する問い合わせ先:

ジェトロ・ヨハネスブルク事務所

住所: 4th Floor, West Tower, Nelson Mandela Square, Cnr 5th and Maude Street,
Sandton Johannesburg, REPUBLIC OF SOUTH AFRICA

TEL: + 27-11-784-6084

インフラ・プラントビジネス支援課

住所: 〒107-6006 東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル

TEL: 03-3582-5542

【免責条項】

ジェトロは、本報告書の記載内容に関して生じた直接的、間接的、あるいは懲罰的損害および利益の喪失については、一切の責任を負いません。これは、たとえ、ジェトロがかかる損害の可能性を知らされていても同様とします。

概況

2010年から現在にかけて、サブサハラ・アフリカ（以下、アフリカ）は、開発およびインフラにおいて様々な発展を経験してきた。アフリカは飛躍的に発展し、世界で最速で成長している経済の多くが現在アフリカにある。この成長は、軸となる地域（南アフリカ、ケニア、ナイジェリアなど）、発展中の地域（特にエチオピア、モザンビーク、タンザニア）、これらの国々をまたぐ地域におけるインフラ開発にとって大きな弾みとなった。

相次ぐ新規の資源発見や民主化の傾向は、アフリカにおける GDP 成長率にプラスの影響を及ぼした。しかし、成長水準は、非常に低い起点から始まっているため、このようなプラス成長を記録することは容易である。加えて、低水準の開発、技術およびサービスが普及しておらず、アクセスが悪いということは、他の地域では飽和している可能性のある市場が、アフリカには相当なサイズで存在することを意味している。

この良い例が、携帯電話通信業界である。アフリカにおける携帯電話業界は、過去数年で急成長しており、2007年から2011年で記録された成長率は550%に上る。この成長率は、安価な電話機と、より手頃な価格モデルに後押しされている。アフリカにおける携帯電話の普及率は、世界全体の普及率である76%と比較すると41%と低いが、携帯電話は確実に好まれる通信手段になってきており、アフリカでは固定回線1本につき最低でも8台の携帯電話が存在している。その上、成長の余地はまだある。

アフリカにおいてこのような成長が低い起点から始まっていることを考慮すると、開発スキルやインフラ、サービスの必要性は、海外投資にとっては多大なる好機をもたらす。さらに、アフリカ諸国が提供する成長市場もまた、向こう数十年でのアフリカ諸国における人口成長予測を考慮すると、投資家にとって魅力的な引き寄せ要因となっている。

人口成長に関しては、この地域における高水準を説明するいくつかの要因がある。その中には、教育水準、社会経済的地位、文化、宗教などがある。収入および教育水準と出産に不均衡な関係があることは、文書による十分な裏付けがある。収入および教育水準が上がると、出産率が低下し、その逆も然りということである。さらに、様々な文化および宗教的な要因により、出産率が高いことは望ましいとされている、または、女性の生殖の権利が制限されている地域では、出産率が高くなる可能性がある。もう一つ考えられるのは、避妊具へのアクセスおよびその使用である。避妊具が普及していないことも多く、避妊具の使用に対して否定的なイメージがある場合がある。

これらの要因の結果、以下の国々では、今後高い人口成長を迎えることが予測されている。ニジェール、ウガンダ、ブルンジ、マリ、リベリア、ブルキナファソである。一方で、人口成長率の低い地域は、次の通りである。モーリシャス、南アフリカ、ボツワナ、カーボベルデである。このことから、開発水準と人口成長が反比例関係にあることが示されている。

電力

アフリカにおける電力供給は、まだ十分ではない。南アフリカの電化率は、最も高い電化率である70%であるが、他のほとんどの国々の電化率は30%以下である。地方における電化率は、グリッド延長に関わる費用の問題で、低い傾向がある。このことは経済的な影響を及ぼし、開発のペースに影響した。

南アフリカは、電化の点においては、電化率70%と最も進んでいる。同地域におけるその他の大抵の国々の電化率は低く、特にコンゴ民主共和国（6%）やモザンビーク（6%）が低い。多くの国々が社会的、開発的、経済的な理由から電化水準の上昇を望んでおり、このセクターにおけるインフラ開発には、好機が存在する。ギニア湾周辺およびアフリカ東部沿岸における油、ガスの発見により、これらのセクターにおける開発余地が示されているが、多くの国々は未だ資金援助に依存しており、西側援助国はよりクリーンなエネルギーを選ぶようになってきている。例えば、太陽光、風力、水力、バイオ燃料におけるエネルギーインフラ開発の好機もまた増加してくるであろう。

輸 送

アフリカを横断する最低限の既存の輸送サービスの状態は、悪い場合が多い。更新や保守が不十分で、容量も限られており、輸送サービスの維持および拡大に使える資金があるかどうかがこの点において主要な課題となってきた。輸送インフラの投資は著しいが、進捗が遅いことも多く、特にビジネス面で考えた際に、費用対効果を上げるためには課題も多い。開発回廊に焦点を当てたことは役立っており、道路および鉄道網への投資が港湾施設への投資に繋がっている。また、全体的なイニシアチブにおいて、道路から鉄道輸送へのシフトが目立つ。

通信サービス

アフリカにおける通信サービスは、遅く、高価で、信頼性が低い傾向がある。しかし、携帯電話通信市場における発展により、アクセスが大幅に改善され、コストが下がり始めたことが示されている。過去 4 年において、膨大な数の人が携帯電話通信を手に入れ、実際にアフリカにおける携帯電話接続数は約 2 倍になり、2016 年までには、同地域における携帯電話利用者数は 10 億人近くに上ることが予測されている。これは国内総生産（GDP）にプラスの影響を及ぼした。

水 道

アフリカの水道普及率は低く、同地域において水資源にアクセスがあるのは僅か 61%の人々である。国連が 35 のアフリカ諸国を分析したところ、地方と都市における水供給にかなりの格差がある。都市部においては、水道水が 60%の利用者に供給されているが、地方では 40%である。現状では、アフリカは水不足と戦っており、組織的、財政的、技術的な能力が乏しいため、水資源の管理が悪く、さらに不安定な状態となっている。これらの状況は多額の公的負債負担および異なるセクター間における公的資金を巡る競争により、悪化している。

結 論

アフリカ地域において欠くことのできない様々なインフラは不足しており、利用できる場合でも質が悪いことが多い。そのため、事業費用を改善させ、経済成長を促し、広範囲にわたり人材を開発するために、この地域全体においてアフリカ諸国のインフラプロジェクトに対する投資が喫緊に必要とされている。